

Taxonomic study of Japanese Scelioninae and Teleasinae (Hymenoptera, Platygastroidea, Scelionidae)

米田, 洋斗

<https://hdl.handle.net/2324/2236289>

出版情報：九州大学, 2018, 博士（農学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）



氏 名 : 米田 洋斗

論文題名 : Taxonomic study of Japanese Scelioninae and Teleasinae (Hymenoptera, Platygastroidea, Scelionidae)

(日本産タマゴクロバチ亜科及びトゲムネタマゴクロバチ亜科(膜翅目・タマゴクロバチ上科・タマゴクロバチ科)の分類学的研究)

区 分 : 甲

論 文 内 容 の 要 旨

タマゴクロバチ科は、南極区を除く全世界から 195 属 4064 種が知られる寄生蜂の一群である。卵寄生蜂である本科は寄主が多彩であり、これまでにトンボ目、バッタ目、シロアリモドキ目、カマキリ目、カメムシ目、コウチュウ目、チョウ目、ハエ目への寄生が確認されている。これらの寄主の中には、斑点米カメムシや果樹カメムシを中心とする様々な害虫が含まれており、本科は土着天敵として農地生態系で重要な地位を占めている。わが国において本科は 40 属 121 種が知られているが、このうちの 8 属は種同定を伴わない記録である。それ以外の属においても、本州及び九州の数地点と国後島で得られた僅かな標本に基づく研究が行われたのみである。本科、特にタマゴクロバチ亜科の種及び属の多様性は低緯度地域で高いことが知られており、国内においても南西諸島で多様性が高いことが推察される。

そこで本研究では、南西諸島を中心に日本各地で行った野外調査と、九州大学農学部昆虫学教室、愛媛大学ミュージアム、名城大学農学部昆虫学教室、農研機構農業環境変動研究センター、北海道大学農学部昆虫体系学教室に収蔵された標本、及びロシア科学アカデミー動物学研究所、ウクライナ国立学士院動物学研究所に収蔵された日本産を含む旧北区産種の模式標本をもとに、日本産本科のうちタマゴクロバチ亜科とトゲムネタマゴクロバチ亜科について分類学的検討を行った。

研究の結果、トゲムネタマゴクロバチ亜科のうち、従来 3 属 9 種が記録されていた *Teleasini* 族では 3 属 16 種を確認した。従来日本産種の種同定が行われていなかった *Teleas* 属では、*Tel. strigatus*, *Tel. sulcatus*, *Tel. tridentatus* の 3 種を確認した。また、日本産の *Trisacantha* 属は *Ceratoteleas* 属に属する *C. cornus* sp. nov. の誤同定であった。*Trimorus* 属については、既知種のうち *Tri. fulviclavatus* Miyazaki のタイプ標本中に未記載種 (*Tri. rutundinaris* sp. nov.) が混入していたことが判明した。さらにこれ以外にも 5 未記載種を確認した。このうち *Tri. rufilatus* sp. nov. はこれまでインド亜大陸及びアンダマン諸島からのみ記録されていた *Neotrimorus* 亜属に属する種であると考えられた。また、日本ではこれまで記録のなかった短翅型の種を 3 種 (*Tri. haniyasu* Mita et Yamagishi, 2018, *Tri. granulatus* Komeda, Mita et Yamagishi, 2018, *Tri. coriaceus* Komeda, Mita et Yamagishi, 2018) 確認した。

これまで 32 属 67 種が知られていたタマゴクロバチ亜科では、*Scelio* 属、*Baeini* 族、*Thoronini* 族を除く分類群について再検討を行った。その結果、6 属 15 種の新記録分類群と、35 種の未記載種を確認した。この結果、日本産タマゴクロバチ亜科は 38 属 110 種となった。

ヘリカメムシ類を寄主とする *Gryon* 属は従来 23 種が記録されていたが、3 種の新結合名、5 種の誤同定、5 種の同物異名、7 未記載種を確認し、日本産本属は 9 種群 16 種となった。各種群は postgenal pit と fossa の位置関係、occipital carina の形状、中胸楯板・小楯板の彫刻、小楯板の発達具合によって識別された。種群内の各種は後頭・後体節の彫刻によって識別された。また、*charon* 種群、*floridanum* 種群、*muscaeforme* 種群、*myrmecophilum* 種群、*pubescens* 種群に属する 6 種がヘリカメムシ科・ホソヘリカメムシ科に属する 9 種の害虫カメムシを寄主としていることが判

明した。

Calotelea 属は従来 7 種が記録されていたが、再検討の結果 3 種の新結合名と 1 種の同物異名を確認し、さらに南西諸島より 3 未記載種を確認した。各種は前翅暗帯の形状や後体節第 1 節の形状などで既知種と区別された。*C. originalis* と未記載種の *C. rhytidus* sp. nov. 及び *C. spinosa* sp. nov. は上方に弱く伸張した後胸小楯板を持つことから、従来北米・南米及び旧北区西部から知られていた *ocularis* 種群に属すると考えられた。

Paridris 属は従来本州及び九州から 3 種が知られていたが、新たに南西諸島から *nephta* 種群に属する 2 未記載種と 1 未記録種を確認した。日本の *nephta* 種群は基本的に異所的に分布しており、北海道から屋久島には *P. nephta*, 奄美大島・徳之島には *P. kenmun* sp. nov., 沖縄本島には *P. kijimuna* sp. nov., 石垣島・西表島には *P. solaris* が分布していた。中琉球に分布する 2 種は雌の中体節及び前後翅が退化する傾向が見られた。

日本から新たに記録された 6 属は *Axea* 属、*Dichoteleas* 属、*Embidobia* 属、*Oethecoctonus* 属、*Oxyteleia* 属、*Styloteleia* 属であった。このうちの 4 属は東南アジアから記録がある属であり、日本での記録も *Axea* 属を除いて南西諸島に限られていた。一方、*Dichoteleas* 属は南方隔離分布を示す属であり、*Oethecoctonus* 属は北米・南米及びセーシェル諸島での記録がある属である。国内において *Dichoteleas* 属は北海道から九州及び対馬にかけて 1 未記載種が確認され、*Oethecoctonus* 属は本州と八重山諸島から 2 未記載種が確認された。旧北区東部及び東洋区におけるタマゴクロバチ科の分類学的研究は遅れていることから、今後両属は日本周辺地域からも発見される可能性が高い。